AGENT 取替用レバーハンドル錠　取付説明書（品番：LS-640）

この度は当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品のご使用に際しましては、この取付説明書をよくお読みの上、正しく安全にお取り扱い下さい。
また、この取付説明書はいつでも取り出せる場所に保管して頂きますようお願いします。

お願い　取付をされる業者様へ　　本書は必ずお施主様またはご使用主様へお渡し下さい。

重要
・ハンドルにぶら下がったり通常以上の付加をかけることは、決してしないで下さい。危険なばかりか錠前が正常に機能しなくなる恐れがあります。
・付属のストッパープレートは一部不可な場合を除いて必ずご使用下さい。

1.取付の前に必ずご確認下さい。

1-1. 適応範囲

適応扉厚　32～40mm
チリ寸法　3mm～
取付ビスピッチ　44mm（水平方向）

図1-1-1　チリ寸法と扉厚

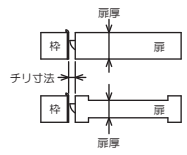


図1-1-2 フロントサイズ

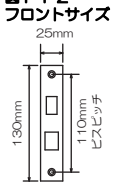
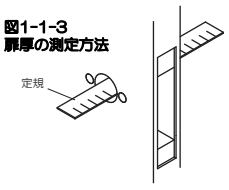


図1-1-3 扉厚の測定方法

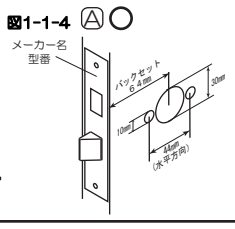


1-2. 適合錠タイプの確認（メーカー名、型番）

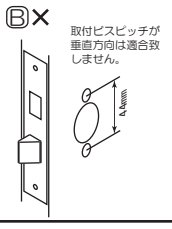
MIWA社　：　HM（バックセット64mm）
GOAL社　：　UC（バックセット64mm）
SHOWA社：　IS*, ISD*（バックセット64mm）
ALPHA社：　Wロック（バックセット64mm）
AGENT　：　BSロック（バックセット64mm）

注意）・上記の型番であっても取付ビスピッチが水平方向44mm以外は不適合になります。

図1-1-4 Ⓐ○

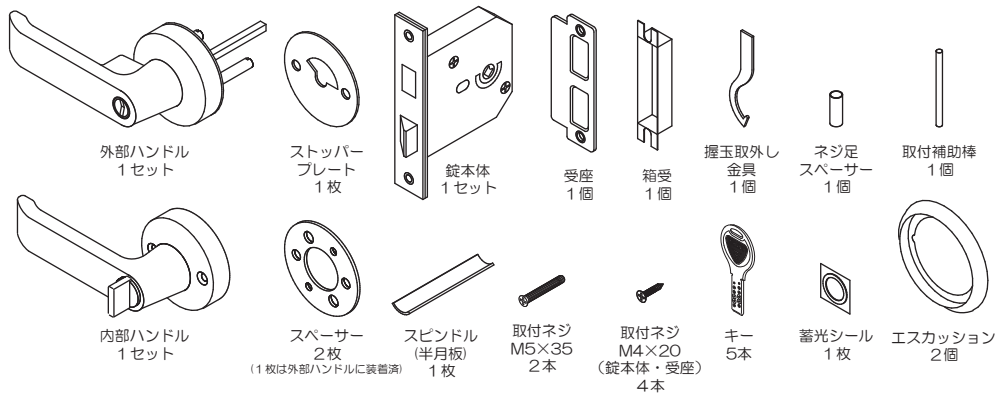


Ⓑ×



1-3. 梱包内容一覧

注意　スピンドルは出荷時、ハンドルにセットされてありますが、一旦ハンドルより抜いて下さい。



2.握玉・引付板・錠本体の取外し

注意　以下取付作業には軍手などの手袋をご使用下さい。
（金具などで手を切ることもあります。）

現在使用されているノブの握玉・引付板・錠本体を取外して下さい。

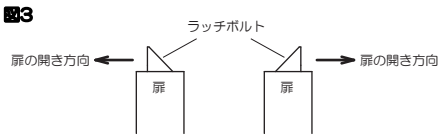
※取り外しには⊕ドライバー、付属の取り外し金具をご使用下さい。
次に錠本体も取り外して下さい。

3.錠本体の取付

扉の開き方向にラッチの向きを合わせ、錠本体を取付ネジで固定して下さい。

※ラッチの向きを変えるには錠本体を上下逆にします。

図3



4.外部ハンドルの設定

4－1．外部側切カキ穴より見えるスピンドル穴（半月穴）と角芯穴を確認して下さい。

外部側切カキ穴より見えるスピンドル穴（半月穴）と角芯穴は解錠時(デッドボルトが出ていない状態)下記の4種類があります。
A～Dのどのタイプに当てはまるかご確認下さい。

図4-1-1

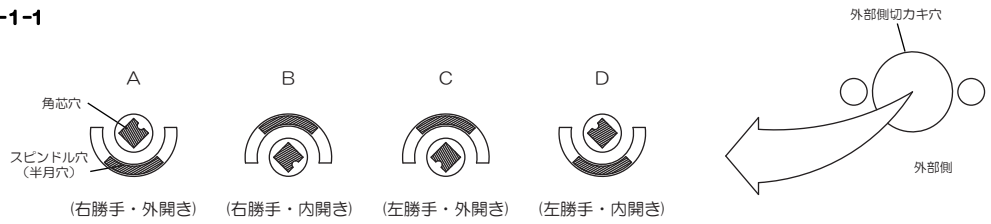
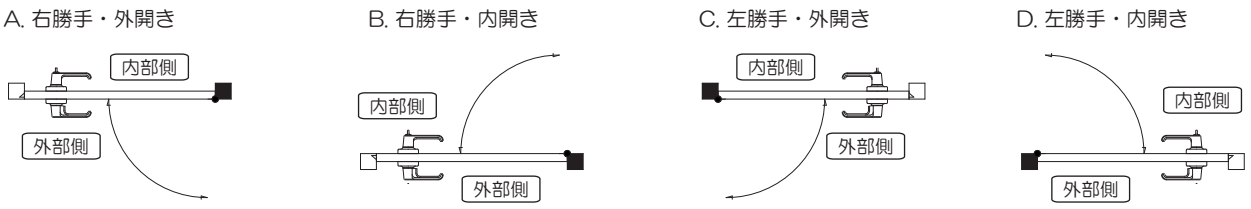


図4-1-2



（ 裏面へ続きます。）

（ 表面 ”4.外部ハンドルの設定” のつづき。）

4－2．外部ハンドルにストッパープレートをはめ込みます。

4－1　で確認したスピンドル穴（半月穴）、角芯穴　A～Dをもとに外部ハンドルにストッパープレートをはめ込む向きを確認して下さい。
（図4-2-2）

図4-2-2は外部ハンドル及びストッパープレートを　右図（図4-2-1）のY方向から見た図になります。
図4-2-2と同じになるようにストッパープレートを外部ハンドルにはめ込んで下さい。

注意）・キーは必ず抜いた状態で取付して下さい。
・ストッパープレートの向きを間違ってセットすると扉に取付時、ハンドルが正常に回らなくなります。

図4-2-1

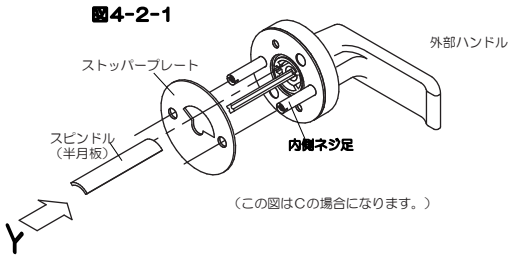
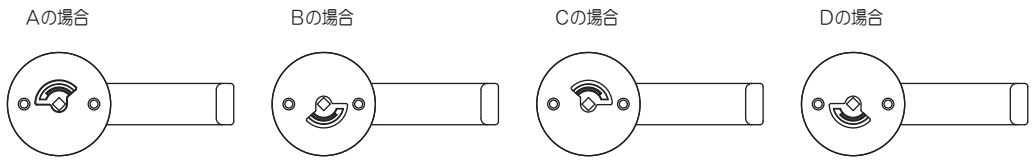
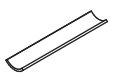


図4-2-2



4－3．外部ハンドルにスピンドル（半月板）をはめ込みます。

図4-2-1　を参考にスピンドル（半月板）を外部ハンドルに差し込んで下さい。



4－4．ネジ足スペーサーをはめ込みます。

内側ネジ足（図4-2-1参照）にネジ足スペーサー　をはめ込んで下さい。

（扉の切り欠きのずれなどにより錠に入らない場合は使用しないで下さい。）

5.外部ハンドルの扉への取付け

5-1. 外部ハンドル取付前に

下記の事柄を確認して下さい。
・扉は解錠状態（デッドボルトが出ていない状態）にして下さい。
・キーは外部ハンドルから抜いた状態で取付けて下さい。

5-2. 外部ハンドル取付

・角芯はスピンドル（半月板）と反対側の溝を使って角芯穴に差し込んで下さい。
（図5-2-1の矢印側）

図5-2-2

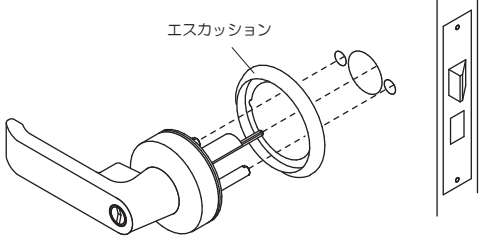


図5-2-1

入らない場合は、半月板の位置が反対になっている事が考えられますので”4．外部ハンドルの設定”をやり直して下さい。

6.外部ハンドルの作動確認

外部ハンドルを扉の外側から差し込んだ後ハンドルを下方向に回転させてラッチボルトが下がるかどうかご確認下さい。

6-1. ハンドルが下がらない場合は…

・ハンドルが下がらない場合はスピンドル(半月板)はそのままでストッパープレートのみを入れ直して下さい。
（4-1,4-2参照）

6-2. 万一ラッチボルトの引き残しが大きい場合は…

・ラッチボルトの引き残し（図6-2-1）が大きい場合はストッパープレートを外して下さい。
（外した場合、ハンドルは上方向にも回転します。）
ストッパープレートのスピンドル（半月板）が当たる部分をヤスリ等で削ることが可能な場合は、ラッチの引き残しを確認しながら削って下さい。

図6-2-1

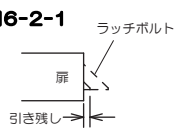
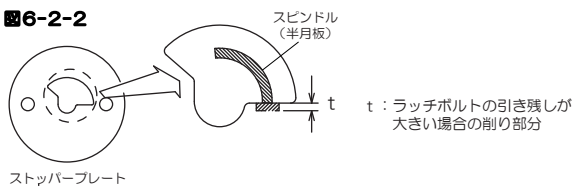


図6-2-2



7.内部ハンドルの扉への取付け

扉厚32～40mm

7-1. 外部ハンドルの取付け（差込）後、フロントより遠い方の取付け足(内側ネジ足、図4-2-1参照）の穴へ取付補助棒を差し込んで下さい。扉の厚い時（35～40mm）は奥まで差し込まないで下さい。

7-2. サムターン(つまみ)を垂直にして　取付補助棒、角芯、スピンドル(半月板)がそれぞれの穴に入るように差し込みます。この時、右図(図7-2)の通りにエスカッション、スペーサーを使用して下さい。

7-3. フロント側のネジ穴に取付ネジを差し込み、ハンドルの先端を上に軽く持ち上げながらドライバーで仮締めして下さい。

7-4. ハンドルを下に下げて、取付補助棒を抜き2本目の取付ネジをドライバーで仮締めして下さい。(図7-4)
注意）この時、取付棒とドライバーでレバーハンドルに傷をつけないように注意して下さい。

7-5. 扉を開いた状態のまま、内部、外部レバーハンドル、及びサムターンとキーを操作し正しく作動するかをご確認下さい。確認後、取付ネジを2本共均等にしっかりと締め付けて下さい。
※作動が重いようであれば、ネジを少し緩めて調子の良いところでしっかり締め付けて下さい。
※内開き外開き、左右勝手によってサムターンやキーの回転方向が違ってきます。

7-6. 錠の取付後、受を右図（図7－6）のように取り付けます。
受の中心は、錠の中心に合わせて下さい。

7-7. 蓄光シールを外部ハンドル鍵穴周りに貼って下さい。

図7-2

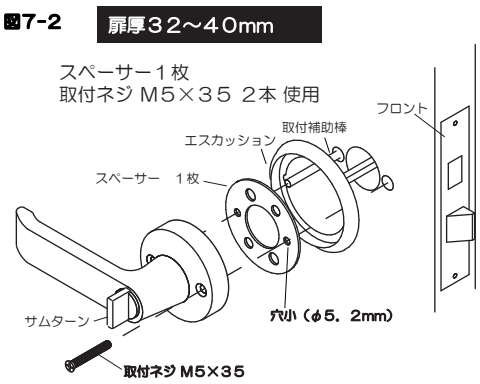


図7-4

図7-6

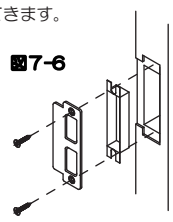


図7-7

株式会社 大黒製作所